

DS-M型

## 貫通形変流器

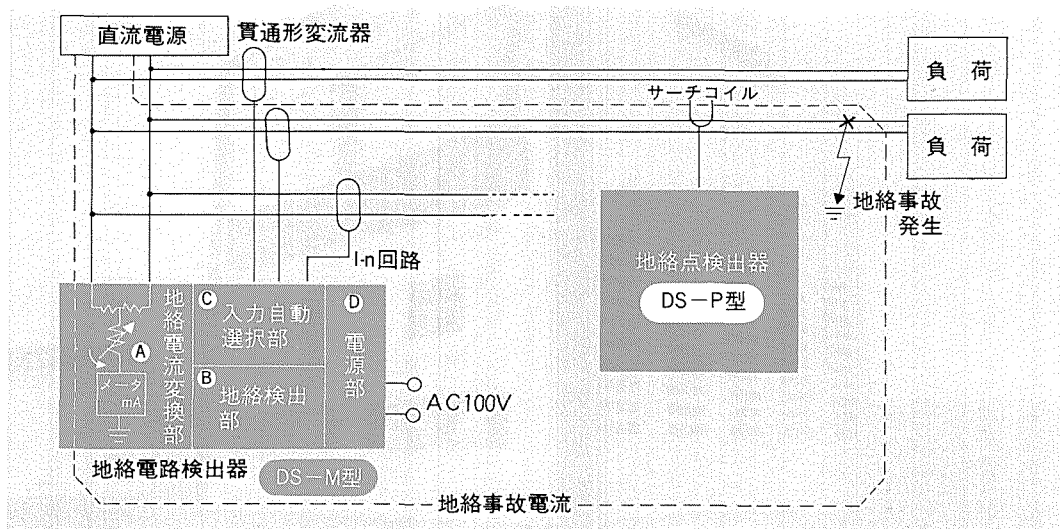
各電路ごとに挿入して、地絡事故電流を検出する。

## 地絡電路検出器

地絡事故電路を自動的に探索して警報、表示する総合監視盤。

## 地絡点検出器

携帯して、地絡電路をトレースし、サーチコイルで地絡事故点を探索する。

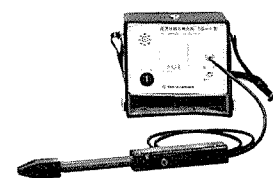


図のように、地絡事故が発生すると **地絡電路検出器** が次の順序でどの電路(分岐回路)に地絡が生じているかを指示します。

- ① 回路に地絡が発生すると、その回路に設置した直流地絡継電器64Dが警報を発します。
- ② 地絡電路検出器(DS-M)が始動すると同時に64Dの接地を切り離しますとDS-Mの **地絡電流変換部** で地絡事故電流を11Hzの正弦波的脈流に変換します。
- ③ 地絡電路検出器の入力自動選択部が、回路番号を1秒毎にデジタル表示しながら、貫通形変流器からの信号を無接点スイッチで切り替えていきます。
- ④ 無接点スイッチで選択されて来た信号は、**地絡検出部** で増巾、フィルターし、電路の容量性のものか地絡事故による抵抗性のものかを判別するように、**地絡電流変換部**の信号によって同期整流し、これをメータ(LEVEL)に表示します。信号が設定レベルを越えると、回路選択を停止して警報を発します。入力自動選択のスタート・ストップは、手動でもできますがステップ送りもできます。
- ⑤ 次に、携帯用の地絡点検出器(DS-P型)で、その電路のどこに地絡点があるかを探索します。

一般に直流制御回路には、直流地絡継電器64Dが設備されています。この場合には、64Dが動作して警報したあと、本装置を手動で始動させるか、自動で始動させるかは任意に設定できます。

本装置で検出操作するときは、どちらの場合も直流地絡継電器64Dの接地は切り離す必要があります。



DS-P型

## 仕様

対地分布静電容量の多い設備(大容量変電所等)では、右記仕様を多少変更する場合があります。

|                  |                    |                                   |
|------------------|--------------------|-----------------------------------|
| <b>A</b> 地絡電流変換部 | a. 発振周波数           | 11 Hz(正弦波)                        |
|                  | b. 地絡電流表示          | DC 50 mA(フルスケール)                  |
| <b>B</b> 地絡検出部   | a. 地絡レベル           | 100(フルスケール)                       |
|                  | b. 地絡検出能力          | 6 k $\Omega$ (対地静電容量 5 $\mu$ F以下) |
|                  | c. バンドパスフィルター中心周波数 | 11 Hz                             |
|                  | d. アンプフィルター総合ゲイン   | 70 db以上                           |
| <b>C</b> 入力自動選択部 | a. 入力数             | 1 ~ n(指定のこと)                      |
|                  | b. 選択時間            | 1 秒 / 1 入力                        |
| <b>D</b> 電源部     |                    | AC 100 V                          |